



取組1 ダイバーシティ研究環境整備のための取組

1 「ならっこネット」の普及と「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築に向けて

待望の「訪問型」病児・病後児保育の実現へ

これまでの取組により
若手女性教員の増加
理学部若手女性教員(助教、准教授)のうち
約60%が子育て中
病児・病後児保育のニーズも増加

「訪問型」病児・病後児保育に向けた見通し

- 重要ポイント
 - 1 リスク管理 事故を防ぐ
 - 2 サポーターの養成 病児・病後児の託児に対応
 - 3 医療機関との連携 近隣の小児科医等
- 自治体や各地域のファミリーサポートセンターと連携
 - 1. 市と県の医師会との連携
 - 2. 調査、意見交換: 病児・病後児保育実施機関
 - 3. 専門家(医師・弁護士等)を交えた協議
 - 4. 病児・病後児対応可能サポーター養成
 - 5. シンポジウム等: 「附属病院をもたない研究機関における病児・病後児保育のあり方」
- 共同実施機関の技術活用

病児・病後児見守りシステム開発 プロアシスト社のIT技術

10年以上にわたり奈良女子大学で実施してきた「訪問型」託児システム「ならっこネット」を基盤にして、「訪問型」病児・病後児保育システムを構築し、全国のモデルを目指す。

2 アンケート調査と分析

「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築のためのニーズ調査を兼ねたアンケートを実施
(奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学)

Q 研究・仕事・学業と育児の両立に関して悩むこと、或いは、かつて子育て中に悩まれたことは何ですか？

- 1位 子どもの病気で欠勤(欠席)・遅刻・早退をすることがあり、周囲に迷惑をかけてしまう。
- 2位 夜遅くまで残れない。夕刻以降の会議に出席しにくい。 ●3位 子どもと過ごす時間が少ない。

Q 勤務日(出席日)にお子さんがケガや病気で、保育施設・小学校を欠席することになった場合、どのように対応されていますか。或いは、対応されていましたか。

- 1位 自分が仕事を休んで看護する。 ●2位 祖父母に預けて看護してもらう。
- 3位 就労している配偶者が休みを取って看護する。

Q 「訪問型」病児・病後児保育システムについて、12歳以下の子どもがいる方(55名)の回答

- 病児・病後児保育は必要であり、訪問型があれば利用したい。(23名 42%)
- 病児・病後児保育は必要だが、訪問型でない方がよい。(11名 20%)
- 「その他」の中でも否定的でないもの(6名 11%)
- 何らかの形で病児・病後児保育が必要という意見(40名 73%)

▶ 仕事と育児の両立で困ることの第一に子どもの病気が挙げられ、その時は、自分または身内が仕事を休んで看護する実態が見えてくる。何らかの形で病児・病後児保育が必要と言う意見は、小さい子どもを抱える研究者の7割を超える。

3 病児・病後児保育関係者・各機関との意見交換

令和元年12月19日	一般財団法人 女性労働協会	東京都港区
令和元年12月20日	認定NPO法人 フローレンス	東京都千代田区
令和2年1月22日	全国ボランティアナースの会 キャンナス生駒	奈良市
令和2年1月29日	訪問看護ステーション「なでしこ」	奈良市
令和2年2月8日	子育てと仕事.com	奈良市
令和2年2月18日	すくすくこどもクリニック/きらきら保育園	奈良市
令和2年2月25日	堺市訪問型病児保育センター	堺市

●自治体との連携・面談

令和2年2月19日	奈良市子ども未来部子ども育成課	奈良市
-----------	-----------------	-----

4 「訪問型」病児・病後児保育ワーキンググループ(WG)の設立

●WGメンバー

西原 信氏(医療アドバイザー)	すくすくこどもクリニック/きらきら保育園院長	小児科医師
安原 忍氏	全国ボランティアナースの会 キャンナス生駒代表	看護師・保育士
新谷 まさこ氏	子育てと仕事.com代表	看護師・保育士
推進センタースタッフ		保育士ほか

●第1回WG会議

日時: 令和2年3月17日

場所: すくすくこどもクリニック/きらきら保育園(奈良市)

議題

- 奈良女子大学「訪問型」病児・病後児保育のシステム構築について 趣旨説明
- 奈良女子大学「訪問型」病児・病後児保育 進捗状況報告と意見交換

5 託児見守りシステムの構築

託児の状況を遠隔で見守るシステムの構築に向けて、プロアシスト社、奈良女子大学、武庫川女子大学で打合せを行い、遠隔見守りでの必要なICTシステムの検討を行った。



6 サポーター養成講座と共同利用

- サポーター養成のためのブラッシュアップ講座を開講、共同実施機関の共同利用可

開催日時	場所	講座タイトル	講師	参加者数
令和元年10月25日(金) 13:00-15:00	奈良女子大学	乳幼児の自己表現 ～ことば・遊び・からだのチャンネルをつかって～	奈良女子大学 生活環境学部准教授 臨床心理士・公認心理師 黒川嘉子氏	26名
令和元年11月25日(月) 13:00-15:00	奈良女子大学	乳幼児の事故予防とAEDを使用した一次救命	日本赤十字社 奈良県支部 山田陽子氏	19名
令和元年12月9日(月) 10:00-12:00	奈良こども館	体験!保育の現場@奈良こども館	奈良こども館館長 森田一雄氏	10名
令和2年2月8日(土) 13:00-15:00	奈良女子大学	どうする!? 保育中の急なケガや事故に救急対応! ～食事中・遊び中・午睡中の安全～	子育てと仕事.com代表 看護師 新谷まさこ氏	29名



7 ワークライフバランス(WLB)支援相談室と共同利用

奈良女子大学に設置している「WLB支援相談室」を共同実施機関においても利用できるように、共同利用を開始した。また、ミニ講座の共同利用を開始した。HPやチラシで広報を行った。

- 2019年度「WLB支援相談室」カウンセラー

島本 太香子氏	奈良大学教授/ 奈良県男女共同参画審議会委員	産婦人科医師
梶間 敦子氏	奈良学園大学保健医療学部教員	助産師・看護師
太田 育子氏		社会福祉士・認知症ケア専門士

「WLB支援相談室」ミニ講座の開催(全9回)

昼休み時12:30-13:00

カウンセラーによる女性の健康、妊娠・出産・育児、
介護に関する情報提供・相談のための講座



8 研究支援員の配置とその成果

ライフイベント中の子育てや介護等の支援の充実・拡充のために、研究支援員制度を構築し、実施した。

- 2019年度実績

	対象者	
奈良女子大学	13名	教育研究支援員制度(＊)
奈良工業高等専門学校	7名	きららか研究支援員制度
武庫川女子大学	4名	研究支援員制度

*教育研究支援員制度では、ライフイベントや本人の病気・ケガの事由により支援を必要としている教員(＊男女を問わない)に支援員を配置している。教育に関する支援は自主経費で、研究に関する支援は補助金で行い、包括的な支援を行っている。(＊男性の場合は、配偶者が研究機関等における常勤の研究者であることが条件)

支援を受けた教員からの報告

- 時間がかかる研究に関する事務作業を補助してもらうことで、自分自身にしかできない考察・検討などの研究作業に集中することができた。(論文を3編作成したとの報告)
- 育児に時間を取られ、事務的な仕事も多くて研究時間がなかなか取れない中、手が回らない研究資料・情報の収集と整理をお願いしました。論文参考文献、その文献の参考文献、と芋づる式に必要なデータを集めていただき、研究活動に役立つことができました。また、セミナー開催時の補助もお願いしました。(研究成果を研究集会で発表、研究報告集に掲載)
- 調査・分析における準備・片付けの補助を得たため、実際の分析を集中して行えました。また、データ入力や書類作成への補助により、研究活動を円滑に進められました。今回の支援により、研究活動の時間を確保し、かつ、育児時間の余裕ができてワークバランスを整えるのに非常に有効でした。感謝しております。
- 研究活動支援として、実験の準備や補助、器具の洗浄や滅菌、細胞培養等の実験の補助をしていただきました。また、実験の補助やデータ整理をしていただいたことで、他大学との共同研究を着実に進めることができました。支援員の方々のサポートのお陰で、支援期間中に国内学会に参加し、指導学生と共に4題の研究発表をすることができ、うち1題は「Best Presentation Award」を受賞することができました。

研究支援員からの報告

- 先生が時間のやりくりをしながら研究を続ける姿勢を間近に見ることができ、自分自身の将来について考えることができました。私も、仕事と家庭を両立させられるように頑張りたいと思います。
- 研究活動の支援を行ったことで、今まで行ったことのない実験のお手伝いをすることができ、新たな技術を身につけることができた。
- 令和2年4月より分析技術者として働く私にとって、それまでの半年間における教育研究支援員としての経験は、今後のキャリア形成に大きな効果があった。まず、実験を自分で組み立ててデータのまとめまで、一通りを任せていたことで、実験の進め方を学び、知識を充分に得ることができた。また、女性教員のもとで働いたことで、仕事と家庭の両立、つまりワークバランスについて考えるきっかけとなった。
- 自身の研究経験だけでなく、研究支援員として他の研究者への研究活動支援の経験および実績が評価され、4月より○○大学○○研究科○○センターに採用されることになった。(○○は個人情報のため削除)

9 「ライフイベントからの復帰研究スタートアップ支援費」の実施

武庫川女子大学

ライフイベントからの復帰支援の充実を図るために、ダイバーシティ推進委員会で「ライフイベントからの復帰研究スタートアップ支援費」の募集要項を確定後、1名に外部資金獲得を目指し研究基盤の再構築に係る支援(研究会参加や論文投稿費等)を実施した。

取組2

女性研究者の研究力向上のための取組と
それを通じたリーダー育成のための取組

10 女性管理職支援制度

奈良女子大学

女性管理職支援制度(※)を構築し、2020年度より実施することとした。

*「ダイバーシティ推進センター管理職支援制度」とは、

奈良女子大学では、採用教員の女性割合は比較的高く、就業も継続されているが、大学組織の管理職における女性割合は低い。そこで、教育研究活動や大学の管理運営と、介護等のライフイベントとの両立を可能にするため、管理職を支援する制度を「ダイバーシティ推進センター管理職支援制度」として制定した。

11 配偶者に配慮した転勤制度の構築

帝人フロンティア社

配偶者異動に伴う当社社員が同じ地域への転勤を希望する場合、その地域に業務があることが条件で転勤を認める制度を構築

12 意識啓発活動

奈良女子大学

日時	講演題目	講師	場所	参加者
令和元年11月14日(木) 15:00-16:30	「わたし」を活かせる社会の実現をめざして すべては思い込みを捨ててから始まる	中根弓佳氏 (サイボウズ株式会社執行役員、 人事本部長兼法務統制本部長)	奈良女子大学	24名
令和2年1月16日(木) 15:00-17:00	パパの育児が世界を救う?! ~男性の育児の今昔~	小崎恭弘氏 (大阪教育大学教育学部准教授、 NPO法人ファザーリング・ジャパン顧問)	奈良女子大学 佐保会館	33名



奈良工業高等専門学校

●ダイバーシティの現状分析・評価を行うためのコンサルティング(12月2回、2月1回)の実施、コンサルティング報告書の作成

●教職員向け講演会開催(3月27日)、参加者23名(新型コロナウイルス感染予防対策のため、遠隔での受講も可能)

1 共同研究スタートアップ支援経費

連携2機関(奈良女子大学、武庫川女子大学)において、共同研究開始を支援する「共同研究スタートアップ支援制度」を構築し、募集及び審査を行って共同研究プロジェクトを採択した。2020年度からは6機関が共同で募集・審査を行うために検討を行った。

●共同研究スタートアップ支援経費実績

募集・審査	プロジェクト題目	研究代表者所属機関・職・氏名	共同研究者所属機関
奈良女子大学 2件	織毛虫ブレファリズマにおける 生理活性物質の同定と 生理活性の評価および生合成経路の解明	奈良女子大学研究院 自然科学系・ 准教授・杉浦 真由美	武庫川女子大学、 大阪市立大学、 ミネソタ大学(米国)
	中高年時代における 調整力と運動機能の連関に関する研究	奈良女子大学研究院 生活環境科学系・ 助教・大高 千明	武庫川女子大学
武庫川女子大学 1件	浜甲子園地域における 高齢者フレイル予防・対策トライアル	武庫川女子大学・薬学部・ 教授・大川 恭子	(株)プロアシスト 西宮市薬剤師会

2 優秀な女性研究者の顕彰

連携3機関(奈良女子大学、奈良高専、武庫川女子大学)において、特に優秀な女性研究者対象の賞を設立し、募集・審査を行い、受賞者を決定して研究助成を実施した。2020年度からは共同で募集を行うために募集要項を検討した。

●ダイバーシティ推進センター女性研究者賞実績

募集・審査	受賞者	所属・職
奈良女子大学 2名	竹内 孝江	奈良女子大学研究院自然科学系・准教授
	三成 美保	奈良女子大学研究院生活環境科学系・教授
奈良工業高等 専門学校 3名	伊月 亜有子	奈良工業高等専門学校 物質化学工学科・准教授
	宇田 亮子	奈良工業高等専門学校 物質化学工学科・准教授
	松村 寿枝	奈良工業高等専門学校 情報工学科・教授
武庫川女子大学 2名	山本 周美	武庫川女子大学生活環境学部・准教授
	横路 三有紀	武庫川女子大学生活環境学部・助教



3 研究力向上のためのセミナー・講演会・シンポジウム等

武庫川女子大学

シンポジウム

「世界で、国内で活躍する先輩から 一つなる・つなげる武庫女魂ー」を開催
(武庫川学院創立80周年記念事業)

日時:令和元年9月28日(土) 場所:武庫川女子大学 参加者48名

講演者

- 本宮暢子氏(アリゾナ大学名誉教授、大阪市立大学都市健康スポーツ研究センター客員教授、大阪市立大学生活科学研究科特任教授)
- 田村玲子氏(株式会社ワールドピープルUSA代表取締役)
- 高木絢加氏(島前町村組合 管理栄養士、隠岐広域連合立 隠岐島前病院勤務)
- ハリス愛子氏(イースタンワシントン大学 文学部英語科 講師)

武庫川女子大学卒業後の歩みや、人との出会い、活動のきっかけとなったエピソードなどについてご紹介いただきました。その後会場からの質問や、パネラーの先生方とのディスカッションを行った。出席者からは、「武庫川の卒業生の強み、たくましさ、真摯さが伝わってきました」「自分のこれから的人生を考える良いきっかけになりました。」「登壇者の方がスタートしたきっかけを聞き、一步踏み出す力が必要だと感じました。」などの感想が寄せられた。



第1回異分野交流カフェを開催

日時:令和元年12月2日(月) 場所:武庫川女子大学 参加者11名

目的

学部・学科を超えて研究者と出会い、新しい発想で研究テーマを発掘すること。
「健康・福祉・予防」をキーワードとし、建築・住環境・被服・素材・高齢者・栄養・通信・食品・運動・サプリメント・繊維など、さまざまな視点から研究交流が行われた。また、研究方法や研究の管理運営についても意見交換がなされた。



奈良女子大学

競争的資金獲得のためのセミナーを共同実施機関と共に開催 「研究力向上セミナー～科研費獲得に向けて～」

日時:令和元年9月25日(水) 13:00-14:30 場所:奈良女子大学 参加者29名

- 講師 松塙里弥氏(ロバスト・ジャパン株式会社)

より採択されやすい科研費申請書の書き方に関して実例を交えた講演を行っていただいた。「学術的問い合わせ」を中心に記述することの重要性や審査結果の点数の見方など、審査員の視点からより採択されやすい申請書を書くためのポイントについてわかりやすく解説された。

研究のための英語力強化セミナーを実施

1 Effective Presentation

■日時:令和2年3月3日(火) 9:00~16:00

参加者 奈良女子大学女性教員4名(准教授2名、助教1名、特任講師1名)

■日時:令和2年3月4日(水) 10:00~17:00

参加者 奈良女子大学女性教員4名(准教授2名、助教2名)

場所:奈良女子大学

- 講師 アルク株式会社 専任講師 Daniel Brook氏



2 Creative Speaking

日時:令和2年3月10日(火) 9:00~17:00、
3月11日(水) 9:00~17:00

場所:奈良女子大学

参加者 奈良女子大学女性教員5名(准教授3名、助教2名)

- 講師 アルク株式会社 専任講師 松井貴子氏



研究力向上及びリーダー養成のためのセミナー

「第1回きららかセミナー」

「AI時代到来 社会やビジネスにおいて、AIで何ができるか?」を開催

日時:令和2年1月20日(月) 16:30~18:00

場所:奈良工業高等専門学校

参加者45名
(学生、大学・高専教職員、企業の技術者・経営者など)





帝人フロンティア社

管理職候補社員へのキャリアデザイン研修を実施

対象者1名を選定し、10月～合計6回の社外講習を受講させた。

4 研究費支援

奈良女子大学

「研究力向上チャレンジ支援制度(※)」を構築し、募集・審査を行って6名の教員のプロジェクトを採択、研究費の支援を行った。

*「研究力向上チャレンジ支援制度」 趣旨：優秀な女性研究者が研究力を向上させて、さらなる研究上のチャレンジを行って大型の外部資金獲得に挑戦するために必要な備品及び消耗品を支援する制度

奈良女子大学

「スキルアップ経費支援制度」

奈良女子大学において、理工農医保健系の女性教員を対象に、国内外の学会旅費支援及び英文校閲費用の支援を自主経費により実施。2019年度14件

奈良工業高等専門学校

女性研究者への研究業績を上げるために、研究用図書と備品を購入する研究費を8名の女性研究者に配分した。

5 インターンシップ支援

奈良女子大学

C-ENGINE(産学協働イノベーション人材育成協議会)と連携して研究インターンシップを実施し、2019年度はのべ12名の大学院生が企業(8社)で研究インターンシップを行った。また、学生と企業の交流会を開催した。

プロアシスト社

女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組として、インターンシップ/インタラクティブマッチングを8回開催し、11名の学生のインターンシップを行った。

インターンシップ報告会も別途開催

6 ドクターコース進学説明会

日時：令和2年1月27日(月) 16:20～17:50 場所：奈良女子大学 参加者63名

プログラム

- 新しい博士後期課程～人間文化研究科から人間文化総合科学研究科へ～
- さまざまな支援体制～キャリア開発、子育て支援、奨学金、授業料免除、研究助成金など～
- 進路およびドクターを取りまく最近の社会情勢の変化
- 進学者・修了者の経験談

7 異分野交流会

日時：令和2年2月2日(日) 12:00～16:40 場所：奈良女子大学 参加者35名

目的 関西圏女子大学の異分野の研究者が集まり、新しい共同研究や協力体制を立ち上げること

テーマ 「みつける」「ささえる」「つなげる」

奈良女子大学において異分野交流会を開催し、奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、神戸松陰女子学院大学、プール学院短期大学の教員・大学院生約35名が参加し、活発な議論を行った。これをきっかけに共同研究のシーズも生まれている。



8 大学・高専・企業マッチング交流会

日時：令和2年1月24日(金) 13:00-17:10 場所：クリエイション・コア東大阪 参加者123名(57機関)

ダイバーシティ事業の地域への普及の一環として、近畿地区高専マッチング交流会において女性研究者の活躍に係る広報を行った。参加者57機関(関係機関を含む)123名、うち学校関係者、後援機関など59名。更に、将来の女性研究者育成のために必要な女子学生教育に関する情報交換会を9月8日に行い、近畿地区的国立私立の高専教員5名が参加した。



取組3

女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組

1 女性管理職養成プログラム

女性管理職養成プログラムの開発に代表機関と共同実施機関が共同で着手した。

2 企業における管理職研修

プロアシスト社

社内でリーダー養成教育を行い、また外部講師による教育研修を行った。

外部教育研修を契約し、各メンバーがそれぞれのクラスに応じた研修を受講した。

帝人フロンティア社

管理職を対象とした研修(対象:課長クラス、e-ラーニングと集合研修5日間)を大阪(参加者21名)と東京(参加者24名)で開催した(うち女性3名)。研修会は今後も定期開催することとした。

佐藤薬品工業社

管理職を対象としたマネジメント研修(対象:課長以上)を8日間(4月、6月、7月、8月、10月、12月、2月、3月)行い、約50名の参加者があった。2020年度は、階層別研修(対象:課長以上、主任/係長、上級係員)を実施予定

3 女性研究者の上位職への積極登用に向けた各機関の取組

奈良女子大学

「次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく奈良女子大学行動計画」を更新・策定(計画期間:令和2年4月1日より令和4年3月31日)し、上位職の女性教員、女性管理職等の数値目標を決定

奈良工業高等専門学校

2019年度に、2学科において女性限定公募を実施

プロアシスト社

女性研究者の上位職への積極登用に向けた、チャレンジ制度(*)の継続と改良

- ・チャレンジ制度を補完する形で女性の管理職登用に向けた教育メニューの検討
- ・チャレンジ制度の資格範囲を更に広げ、資格要件である受講できるセミナー数を増加

実績:チャレンジ制度を実行し、8名のメンバーが挑戦し、2月の報告会の審査で、女性5名、男性1名が上位職に登用された。

*「チャレンジ制度」 新たな仕事に取り組み、評価が認められればランクアップする制度

帝人フロンティア社

令和元年10月 女性管理職1名をキャリア採用

2019年度より、将来の女性管理職候補を特定し、個別に育成計画を策定している。

佐藤薬品工業社

女性社員の昇格人事を実施し、係長昇格者2名、主任昇格者6名となった。

また、女性管理職候補者育成を目指し、管理職昇格要件のひとつである「ビジネスマネジャー検定」の受験を促した結果、2回の受験で計43名が受験し、うち女性が2名含まれた。

取組4

ダイバーシティ研究環境実現方策の地域への普及のための取組

奈良から、関西から、元気を全国へ!



真のダイバーシティ推進

地方・中小企業・女性の力
格差・差別をなくす



全国の中小規模の大学・企業において 実施可能な取組モデル提供

(中小規模ゆえにトップの意識改革により
迅速に着実に効果的に実施可能)



代表機関・共同実施機関の 特性と多様性を活かす



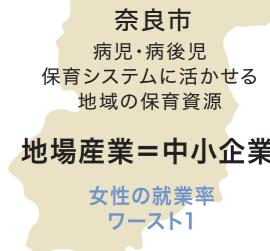
女性の登用

研究力向上

研究環境整備



奈良県の現状



1 関西圏女子大学ダイバーシティ推進協議会(仮称)

本協議会は、関西圏に所在する国公私立女子大学を中心として、その他の国公立大学、自治体、企業等が相互に連携・協力し、関西圏のダイバーシティの推進を図ると共に、地域・全国へ情報発信を行い、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」を推進することを目的とする。関西圏女子大学連携プロジェクトWG(*)をコアとして、令和元年度に設立された。ただし、名称は今後検討することとしている。

*関西圏女子大学連携プロジェクトWGとは、

関西の女子大学において、女性研究者の研究環境の整備・充実と研究の活性化や新領域研究の萌芽を目的とした新たな支援連携システムとして平成26年6月に設立された。武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学、奈良女子大学が中心となり、所属する教員がお互いの連携を深め、共に女性研究者の研究環境の整備や共同研究を推進する活動を行ってきた。毎年数回のWG会議を行うと共に、毎年1-2回の「異分野交流会」を開催して、ライフイベントにより共同研究の機会が得られにくい女性研究者に共同研究のきっかけをつくる活動を行っている。

キックオフシンポジウム

「奈良から、関西から、女性研究者の支援を牽引
～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～」

日時：令和2年2月27日(木) 場所：奈良女子大学

参加者61名

概要

連携6機関で「キックオフシンポジウム」を共同開催し、主催者の挨拶のあと、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)プログラム主管の山村康子氏に基調講演をいただき、ダイバーシティ・マネジメントの段階やその推進における日米の比較、日本のダイバーシティ推進状況等について貴重なお話をいただいた。続いて6機関のそれぞれが、取組内容の紹介とともに、掲げた数値目標の達成に向けて決意を表明した。



Webページの構築

●本事業のWebページを共同で構築し、公開した。

<https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>



●連携機関のHPにおいて本事業のページを開設した。

武庫川女子大学

<https://diversity.mukogawa-u.ac.jp/>



奈良工業高等専門学校

<https://diversity.nara-k.ac.jp/>



外部評価委員会の設置と活動

「ダイバーシティ推進センター外部評価委員会規則」(令和元年9月27日規程第41号)

第2条 委員会は、奈良女子大学ダイバーシティ推進センターに関する次に掲げる事項を評価する。

- 一 事業の運営に関すること。
- 二 事業の目標達成度に関すること。

主な業務

- 毎年の成果報告書への意見・コメント
- 3年度目(2021年度)と6年度目(2024年度)に外部評価委員会による評価を実施
- シンポジウムなどにおける講評

2019年度キックオフシンポジウム(2月27日開催)において外部評議員1名の方に講評を行っていただいた。

広報関係

●事業紹介リーフレット



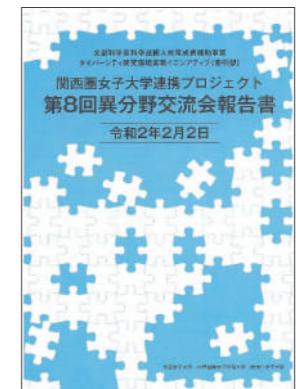
●ダイバーシティ推進センター Newsletter 1号



●キックオフシンポジウム報告書



●第8回異分野交流会報告書



2019年度事業取組実施表

2019年度(事業実施期間1年目)主な実施内容

実施体制 取組1 取組2 取組3 取組4

日時	主な実施内容	実施機関など
実施 9月	「奈良女子大学ダイバーシティ推進センター規程」、「奈良女子大学ダイバーシティ推進センター運営委員会規則」「奈良女子大学ダイバーシティ推進センター外部評価委員会規則」の制定、「奈良女子大学ダイバーシティ推進センター」設置	奈良女子大学
実施 9月	奈良女子大学で運用している「訪問型」保育システムの共同利用及び「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築及び関西圏女子大学ダイバーシティ推進協議会(仮称)の設置等について検討開始	奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・武庫川女子大学(以下3機関と略す)
取組 9月25日	「研究力向上セミナー～科研費獲得に向けて～」開催	奈良女子大学
取組 9月28日	シンポジウム「世界で、国内で活躍する先輩から つながる・つなげる武庫女魂一」を開催	武庫川女子大学
取組 10月	ワークライフバランス支援相談室の共同利用開始 ライフイベントの事由による支援が必要な教員に対し研究支援員を配置	3機関
実施 10月3日	第1回実務者会議	3機関
取組 10月	「訪問型」病児・病後児保育、研究環境整備及び研究力向上のためのワーク・ライフ・バランスにかかるニーズ調査をアンケート形式で実施	武庫川女子大学
取組 10月	優秀な女性研究者への研究費支援制度に基づき、3名の女性研究者に予算配分	奈良工業高等専門学校
取組 10月25日	子育て支援センター養成プラッシュアップ講座 「乳幼児の自己表現～ことば・あそび・からだのチャンネルをつかって～」開催	3機関
取組 11月14日	ダイバーシティ意識啓発「知る・学ぶ・伝えるequality連続講座(第1回) 『すべては思い込みを捨ててところから始まる』」開催	3機関
実施 11月19日	第2回実務者会議	3機関
取組 11月25日	子育て支援センター養成プラッシュアップ講座「乳幼児の事故予防とAEDを使用した一次救命」開催	奈良女子大学
取組 12月	・優秀な女性研究者への研究費支援制度に基づき、「女性研究者賞」2名の授賞を決定 ・共同研究プロジェクト2件採択	奈良女子大学
取組 12月	奈良女子大学及び奈良高専の教職員等を対象に「訪問型」病児・病後児保育システムについてのニーズ・意見集約のためのアンケート調査実施	奈良女子大学・奈良工業高等専門学校
取組 12月2日	第1回異分野交流カフェを開催	武庫川女子大学
取組 12月、2月	ダイバーシティ事業分析・評価の研修を実施	奈良工業高等専門学校
取組 12月4日	「ワークライフバランス」講演会開催	奈良工業高等専門学校
取組 12月9日	子育て支援センター養成プラッシュアップ講座「体験!保育の現場@奈良こども館」開催	3機関
実施 12月23日	第3回実務者会議	3機関
取組 1月	病気・怪我的事由による支援が必要な教員に対し教育研究支援員を配置	奈良女子大学
取組 1月16日	・ダイバーシティ意識啓発「知る・学ぶ・伝えるequality連続講座(第2回) 『パパの育児が世界を救う? ! ~男性の育児の今昔~』」開催 ・ダイバーシティ推進センター女性研究者賞授賞式	3機関 奈良女子大学
取組 1月24日	大学・高専・企業マッチング交流会(クリエイション・コア東大阪)	代表機関・共同実施機関
取組 1月27日	ドクターコース進学説明会開催	奈良女子大学
実施 1月31日	第4回実務者会議	3機関
取組 2月2日	異分野交流会を開催	奈良女子大学・武庫川女子大学 神戸松蔭女子学院大学・奈良工業高等専門学校
取組 2月5日	「異分野交流会共同研究スタートアップ支援経費」採択者の決定	奈良女子大学
取組 2月8日	子育て支援センター養成プラッシュアップ講座 「どうする! ? 保育中の急なケガや事故に救急対応～食事中・あそび中・午睡中の安全～」開催	3機関
実施 2月27日	ダイバーシティ推進センター運営委員会及び連携機関長会議開催 ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(牽引型)キックオフシンポジウム開催	代表機関・共同実施機関
取組 3月3日-3月4日、 3月10日-3月11日	英語力強化セミナー「Effective Presentation講座」「Creative Speaking講座」を開催	奈良女子大学
取組 3月17日	「訪問型」病児・病後児保育システムの構築に向けた第1回WG会議開催	奈良女子大学

おわりに

平成31年の春に、関西圏の女子大学、高専、企業で、ダイバーシティの推進に意欲のある6機関が集まり、地方から元気を全国へ届けたいという想いで、私たちの提案をさせていただき、2019年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(牽引型)」に採択されました。

この事業ではいくつものユニークな取組を行っています。中でも附属病院をもたない機関における「訪問型」病児・病後児保育システムを構築するという目標を掲げ、全国のモデルとなるように取組を進めているところです。

初年度は、事業の予算が下りた9月下旬から精力的に活動を進めてきました。その後、新型コロナウィルスの感染拡大防止のために、2月と3月における講演会やセミナー等の多くの取組を残念ながら延期や中止せざるを得なかったことがあります。採択後の半年間の活動は、この報告書に見られますように、決して少なくない成果につながりました。2020年度は、さらに6機関の連携をより強くし、共に本事業を推進してまいります。

ダイバーシティ推進センター 副センター長
奈良女子大学男女共同参画推進機構長

安田 恵子

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(牽引型)

2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(牽引型)成果報告書

代 表 機 関 国立大学法人奈良女子大学

共 同 実 施 機 関 奈良工業高等専門学校 武庫川女子大学

株式会社プロアシスト 帝人フロンティア株式会社 佐藤薬品工業株式会社

発 行 年 2020年(令和2)年6月

作 成 奈良女子大学 ダイバーシティ推進センター

(Center for Diversity and Inclusion, Nara Women's University)

住 所 〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学(H棟501室)

電 話 0742-20-3344

F A X 0742-20-3344

e - m a i l diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp

U R L <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>